

5 水稲不耕作田に生息する斑点米カメムシの種類

ねらいと成果

平成10年、11年とカメムシ類による斑点米が多発生した。この原因を明らかにするため、近年増加している不耕作田のイネ科雑草でのカメムシの発生実態を調査した。その結果、イネ科雑草に多く生息する種類はクモヘリカメムシ(図)であることが分かった。また、この種は水稲の出穂期に水田で見られる種類と同種であった。

内 容

調査は県北部の7地域の水稲の不耕作田および畦畔のイネ科雑草繁茂部分を対象に、平成11年7月6日、7日と21日、22日に行った。一地点当たり捕虫網を10回振り、捕獲されるカメムシ類を種類別に計数した。

確認されたカメムシ類はクモヘリカメムシ、アカヒゲホソミドリメクラガメ、アカスジメクラガメ、など9種類であった(表)。最も多かった種類はクモヘリカメムシで、10回振りで100頭を越す不耕作水田も認められた。合計数に占める比率ではクモヘリカメムシが60%(発生地点率は78%)で、ついでアカスジメクラガメが20%(発生地点率は56%)であった。多く確認された種類は水稲ほ場の出穂期にみられた種類と共通であり、カメムシ類は不耕作田

や畦畔などのイネ科雑草からも移動するものと考えられる。また、調査した9ほ場の内5ほ場で斑点米カメムシ類が30頭以上捕獲されたことから、斑点米が多発生した一因として、水稲不耕作田でのクモヘリカメムシ・アカスジメクラガメ・アカヒゲホソメクラガメの生息数の増加があげられる。

普及上の留意点

斑点米カメムシ類の防除の要否は、水稲ほ場周辺の雑草の繁茂の様子を考慮し、地域ごとに、出穂期の水田における斑点米カメムシ類の捕獲数の調査で50回振りで2~3頭以上の場合防除を行う。防除する場合は不耕作田も含めた一斉防除が必要である。

山下 賢一(病害虫防除所)

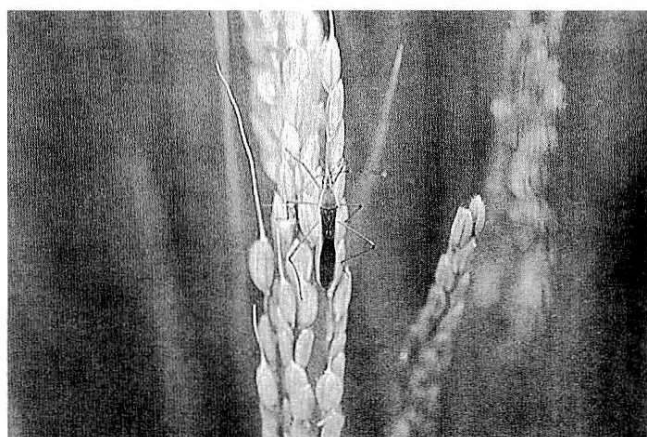


図 稲の穂を加害するクモヘリカメムシ

表 不耕作田の雑草で捕獲されたカメムシ類の種類別虫数

地域	調査 月日	カメムシ種名										雑草 優占種
		クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	アカヒゲ ホソミドリ メクラガメ	アカス ジメクラ ガメ	ミナミホソ ナカ カメムシ	シラホシ カメムシ	ナカ ムキ メクラガメ	コハ ネ ヒョウタン ナカ カメムシ	クロスジ ヒゲナカ カメムシ		
香住町	7/6	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	エノコクサ
	7/6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	キョウキシハ
	7/22	0	0	4	31	0	0	0	0	0	0	キョウキシハ
朝来町	7/6	46	0	4	11	1	0	0	0	0	0	メヒシハ
	7/21	63	7	7	25	0	0	10	0	1	0	メヒシハ
氷上山	7/7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	イタリアンライグラス
	7/21	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	メヒシハ
	7/22	103	10	10	18	14	8	0	0	0	0	イヌビエ
山南町	7/22	34	2	0	0	3	1	0	4	0	0	イヌビエ

(注) 表中の数値は捕虫網10回振りの捕獲数